

【分科会用】施策評価シート

(分科会名) 総務分科会

第五次総合計画上の 位置づけ (施策の体系)	⑥	自治経営～多様な主体と共創し共育するまちをめざして～
	⑥－3	持続可能な行政力をはぐくむ
	⑥－3－1	自治機能を強化する
施策評価対象の 選定理由 (評価のポイント)	国が加速度的に推進するDXへの対応として、本市は令和3（2021）年3月に柏崎市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画を策定し、令和8（2026）年度から柏崎市第二次デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画を開始した。 令和7（2025）年度は第一次計画の最終年度であることから、その成果と課題を総括するとともに、DXによる行政サービスの向上や業務効率化が自治機能の強化にどのように寄与したかを検証し、第二次計画の着実な推進につなげることが重要である。	

1 施策評価のための評価対象事業

事業No.	科目	事業名
①	02-01-07-009-002-001	情報化関連業務総合委託事業
②	02-01-07-009-002-019	社会保障・税番号制度事業
③	02-01-07-009-002-020	情報システム標準化・共通化対応事業

2 施策評価

		施策評価
評価 A	施策の実現に近づいているので、このまま推進する	B 評価
評価 B	施策の実現に近づいているが、さらに事業の改善・見直しが必要	
評価 C	施策目的の実現に近づいていないので、分析と見直しが必要	
評価 D	施策目的の実現に近づいていないので、抜本的改善が急務	

3 施策評価に対する具体的な評価の記述

情報化関連業務総合委託事業、社会保障・税番号制度事業、情報システム標準化・共通化対応事業それぞれの取組により、行政システムの安定運用、コンビニ交付の利用拡大、標準準拠システムへの移行など行政のデジタル基盤整備は着実に進展していると評価する。一方、DXは、デジタル技術の導入自体が目的ではなく、業務効率化や市民サービスの向上につなげることが重要である。特に、情報化関連業務総合委託事業については、事業費に見合った業務時間・経費の削減や市民サービス向上など具体的な効果を検証する必要がある。また、デジタルに不慣れな市民への配慮、国の標準化スケジュールへの対応、DXを担う職員の育成などに課題が残る。

4 施策実現と政策実現に向けた今後の提案

(見直し事業名や予算・人員の増減等にも言及のこと)

情報化関連業務総合委託事業については、現行の委託を単なるシステム維持・運用にとどめず、委託事業者の専門的知見を活用した業務改善につなげ、その成果を業務時間や経費の削減、市民サービス向上等の指標で検証することを求める。 社会保障・税番号制度事業については、コンビニ交付等の利用促進を進める一方、デジタルに不慣れな市民にも配慮し、分かりやすい周知や利用支援を充実させる必要がある。 情報システム標準化・共通化対応事業については、国やシステム事業者の動向を踏まえ、二重投資や不要な経費が生じないよう慎重に進めるべきである。 あわせて、外部委託に依存するだけでなく、業務とデジタル技術の双方を理解し、DXを業務改革につなげられる職員の育成・確保を進める必要がある。そのため、システム維持に係る経費については効果を検証した上で適正化を図る一方、DX人材の育成・確保や市民の利用支援に必要な予算・人員は重点的に配分することを提案する。
--

【分科会用】施策評価シート

(分科会名) 文教厚生分科会

第五次総合計画上の 位置づけ (施策の体系)	③	健康・福祉 ～『健やかさ』をつなぐまちをめざして～
	③－２	子どもを産み育てやすい『健やかな』環境をつくる
	③－２－２	安心して子育てができる環境を充実させる
施策評価対象の 選定理由 (評価のポイント)	柏崎市では、子どもを産み育てやすい「健やかな」環境づくりと、安心して子育て ができる体制の充実を重点に掲げて取り組んできた。しかし、近年、産後うつや育児 ストレスの増加、児童虐待の相談件数の増加など、発生予防や早期対応の強化、妊娠 期から子育て期まで切れ目のない支援をすることが必要となっている。また、行政だ けでなく、地域全体で子育てを支える仕組みづくりも求められていると考える。これ らを踏まえ、「健やかさ」を軸とした子育て環境の整備、相談体制の強化、切れ目の ない支援につながる施策になっているかといった観点から、事業評価対象として選定 した。	

1 施策評価のための評価対象事業

事業No.	科目	事業名
①	03-02-01-047-002-003	子どもの虐待防止事業
②	03-02-01-047-002-019	こども家庭センター利用者支援事業
③	03-02-01-047-003-001	放課後児童健全育成事業

2 施策評価

		施策評価
評価 A	施策の実現に近づいているので、このまま推進する	B 評価
評価 B	施策の実現に近づいているが、さらに事業の改善・見直しが必要	
評価 C	施策目的の実現に近づいていないので、分析と見直しが必要	
評価 D	施策目的の実現に近づいていないので、抜本的改善が急務	

3 施策評価に対する具体的な評価の記述

柏崎市第五次総合計画後期基本計画の重点戦略「子どもを取り巻く環境の充実」に関する施策に取り組み続け ていることは大変評価できる。各事業とも成果が見られ施策実現に近づく一方、質的向上と持続可能性に向けた 見直しが求められる。 子どもの虐待防止事業及びこども家庭センター利用者支援事業では、関係機関との情報連携の即時化や、多様 化・複雑化する相談に対応できる専門人材の確保・育成が急務である。 放課後児童健全育成事業では、環境整備を進めつつ、指導員の処遇改善や配置の加配を図り、利用のニーズを 捉えた質の向上に応える必要がある。
--

4 施策実現と政策実現に向けた今後の提案

(見直し事業名や予算・人員の増減等にも言及のこと)

子ども虐待防止事業及びこども家庭センター利用者支援事業では、複雑化する相談に対応するため、多様な機 関や学校関係者、専門職（保健師・助産師・精神保健福祉士等）の連携を深め、相談件数や利用者数だけでな く、虐待予防、家庭の孤立防止、支援の質的転換を重視した体制へ深化させるべきと考える。 放課後児童健全育成事業では、増加するニーズに対して委託先と協議の下、安定運営を図り、指導員の処遇改 善や人材の定着を推進することが必要と考える。また、配慮を要する児童の増加に対応できるよう指導員のスキ ルアップ研修の充実を求める。 今後は、行政だけでなく地域全体で子育てを支える仕組みづくりを進めるとともに、安心して子育てできる体 制のより一層の充実を期待する。

【分科会用】施策評価シート

(分科会名) 産業建設分科会

第五次総合計画上の 位置づけ (施策の体系)	②	産業・雇用 ～『豊かさ』をつなぐまちをめざして～
	②-2	『豊かな』産業を活かし稼ぐ力をはぐくむ
	②-2-4	地域資源の活用により観光産業を強化する
施策評価対象の 選定理由 (評価のポイント)	人口減少・少子高齢化が進む柏崎市において、既存の地域資源を活用し観光産業を強化することは、本市の経済全体に良好な影響をもたらすとともに、持続可能な柏崎となるための重要施策であるため選定した。	

1 施策評価のための評価対象事業

事業No.	科目	事業名
①	07-01-03-079-107-003	じょんのび村整備費
②	07-01-03-079-039-001	新たな海の柏崎モデル事業
③	07-01-03-079-004-001	情報発信・商品開発戦略事業

2 施策評価

		施策評価
評価 A	施策の実現に近づいているので、このまま推進する	B 評価
評価 B	施策の実現に近づいているが、さらに事業の改善・見直しが必要	
評価 C	施策目的の実現に近づいていないので、分析と見直しが必要	
評価 D	施策目的の実現に近づいていないので、抜本的改善が急務	

3 施策評価に対する具体的な評価の記述

3事業を通じ、じょんのび村の施設環境整備、海水浴中心からアウトドア・自然体験を軸とした新たな海の観光への転換、三庭園を活用したツアー誘致など、既存の地域資源を磨き、観光価値を高める取組が進められていることは評価できる。一方で、各事業の成果を利用者数やイベント参加者数だけで捉えるのではなく、周遊・滞在時間の延長、宿泊、観光消費額など地域経済への経済効果の向上につなげる視点が重要である。

4 施策実現と政策実現に向けた今後の提案

(見直し事業名や予算・人員の増減等にも言及のこと)

今後は、個々の観光資源や事業を単独で展開するのではなく、海・山・食・歴史・体験などを組み合わせ、「柏崎ならではの」資源をストーリー化して周遊・滞在型観光商品へ発展させることを提案する。特に、情報発信を強化し、観光施設や宿泊・飲食事業者等との連携を強化し、来訪者を市内各地へ周遊させ、滞在時間や宿泊、観光消費の拡大につなげる視点が重要である。また、事業ごとの利用者数だけでなく、周遊率、滞在時間、宿泊者数、観光消費額など共通のKPIを設定し、事業効果を継続的に検証する仕組みを整える。行政が各事業を個別に実施するだけでなく、民間事業者や市民を来柏者につなぐコーディネーターとして機能することでシビックプライドを育て、地域全体で「稼ぐ観光」につなげていくことを期待する。
--